



県では、黒毛和種繁殖雌牛での繁殖成績の改善（分娩間隔の短縮）を目指し、代謝プロファイルテスト（MPT）に基づく飼養管理改善指導に取り組んでいます。MPTは、牛群の血液成分値とボディ・コンディション・スコア（BCS）などの外貌から牛群の栄養状態を評価する技術で、調査項目ごとに定められた基準値を目標に、飼料設計の改善を図ることで繁殖成績を改善できます。

今回、県内繁殖牛群に、より適合した基準値を得るため、県内9戸の繁殖成績が良好な優良農場で飼養されている、延べ211頭の黒毛和種繁殖雌牛（平均分娩間隔34

5±14日、平均年齢5・6±2・2歳）の血液成分10項目とBCSなど3項目を調査し、これらの平均値を「長崎型MPT」に設定しました。

黒毛和種雌牛の繁殖改善

MPT基に飼料設計 分娩間隔の短縮確認

この新たな基準値を用いて、県内の繁殖成績が振るわない農場でMPTを実施し、飼料設計の見直しなどの改善指導を行ったところ、農場牛群で血液成分値やBCSが改善し、分娩から受胎までの日数を短縮できることを確認しました。

（県農林技術開発センター 畜産研究部門 大家畜研究室主任研究員 山崎邦隆）

長崎型MPTに基づく改善指導前後の分娩から受胎までの平均日数

	農家1	農家2	農家3	農家4
MPT 実施前	107±10日	128±25日	101±10日	123±9日
MPT 実施後	72±13日	92±27日	59±11日	95±13日